

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく最後まで」「新しい家族」を基本理念に掲げており、各ユニットごとにそれぞれ「毎日、本気で笑いたいねん」「みんな仲良く」といった利用者職員が一体となって地域に密着できるような理念をつくりあげている。	○	職員だけではなく、利用者と地域住民との交流の場を少しずつ増やしていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げている。また、新人研修で確認しながら共有し、実践に向けて取り組んでいる。会議や日々の申し送りの時間などに理念を唱和していたが、最近はできていない。	○	会議や日々の申し送りの時間などに理念の唱和を実践していきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	自治会地域清掃等の地域行事や民生員が集まり勉強する地域包括ケア会議、伊丹市グループホーム連携会へ積極的に参加して理解してもらう機会を増やしている。	○	地域行事等へ参加した感想や報告等ご家族への周知が不足しているので参加した結果報告が出来るように努めたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々と気軽に声を合い名前呼び合うくらいの付き合いになってきた。地域行事の定期的な参加をきっかけに近隣の方のご好意により季節の花や草の鉢植えを定期的に持ってきていただいている。	○	近隣の方との日常的な付き合いをもっと広めたい。地域交流・地域貢献ノートを作り誰もが見れるようにしているがご家族も興味を持ち見ていけるように働きかけたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事には積極的に参加して、職員・利用者が地域の一人として交流することに努めている。	○	自治会の方より、定期的にきれいな花や鉢植えの植木を玄関先に飾っていただけるようになった。隣近所の方々には花の育て方をアドバイスしていただくなど、交流が深まりつつある。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症相談窓口として地域住民の入居相談・介護相談に応じている。地域貢献ができるように広報活動に努めている。	○	地域包括ケア会議に参加し各自治会の民生員や協力員と交流できた事もきっかけに地域貢献を実践していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームページや当ホーム玄関先の所定の場所に自己評価表・第三者評価表を掲示し、職員以外の方でも確認できるようになっている。	○	第三者評価表項目の内容を一人一人がもっと理解を深めて、改善項目等の意思の統一を図りたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行われていた運営推進会議も最近はなかなか実施できていない。	○	民生員や近隣の方にもメンバーになっていただき、幅広い意見を伺いたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連携会・地域包括会議に参加することで、高年福祉課・介護保険課・地域包括支援センターの方々と連携しながら意見交換等で互いが向上できる場を設けている。	○	サービスの質の向上の取り組めるきっかけを逃さず実践に取り組めるようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括ケア会議で成年後見制度について学ぶ機会があった。新入居をする際には説明をしている。	○	権利擁護・成年後見制度の勉強会を実施して実践に役立てたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々の業務やサービス担当者会議等で抑制・拘束を確認しながら、虐待への防止を徹底するように努めている。	○	外部研修だけでなく、本社や各施設間の内部研修を活かして職員に学ぶ機会を設けていきたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約前の相談や利用者の状況の把握に努め、入居前のご家族の不安を解消できるよう入居後の生活について説明をして個々に合いそうな対応を具体的に説明している。契約書等の見本をあらかじめ確認して頂くようにして、契約書内容の説明も十分に行っている。	○	入居前の相談や契約内容についての説明をユニットリーダーと今よりも連携し、利用者・ご家族へのサービスの向上に繋げたい。
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	家族との面会や毎月一回の介護相談員の訪問時に利用者が意見、不満、苦情を表せる機会がある。介護相談員は利用者ともなじみの関係にあり、利用者がそれらを表しやすくなっている。介護相談員からの回答や意見を運営に反映させるようにしている。	○	利用者が外部にも相談していけるような機会を増やしたい。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会や電話連絡時、月一回のふれあい通信等で定期的に報告している。担当者の異動や退職については面会時に報告している。	○	職員・ユニットリーダー・管理者の連携を取れるようにしていき、ご家族が安心できるようなサービスが出来るように努めたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価や本社から直接郵送される家族アンケートで家族等が意見、不満、苦情を表せる機会を設けている。面会時には、家族が気軽に意見、不満を言えるような雰囲気作りに努めている。	○	本社で作成しているハガキアンケートがあるが活用できていないので活用していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談や定例会議だけではなく、日々の勤務の中でも職員が意見や提案をしやすい雰囲気作りを心がけている。反映された意見や提案はすぐに全職員に周知できるように努めている。	○	社内でのネットワークシステムを活用して提案事項をもっと反映できるようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各階のユニットリーダーが勤務作成時に話し合いをしており、利用者や家族の状況を把握できているので、できる限りの職員確保や勤務調整ができるよう努めている。	○	利用者の入退院、緊急通院時には柔軟に職員の確保が出来るように努めているが、職員の時間外のケアに関するサービス料をサポートサービス等として検討していく必要がある。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正社員登用・手当て見直しといった待遇面の改善を図っている一方、職員の思いや考えをコミュニケーションを取りながらできる限り、汲み取れるように努めている。利用者となじみの関係にある職員が離職するのは利用者のみならず、職員、家族にとってもダメージとならないよう配慮している。	○	離職希望の職員には離職の理由や動機を聞き改善に努めている。離職後に気軽に遊びに来れる環境にしており数名戻って来た職員もいる。実際は職員が変わる事で新しい風が入ってくる良さもあるので異動が必ずしも悪い事ではないと認識している。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者・リーダー・管理者研修とそれぞれ管理者ならびに職員を段階に応じて育成するための研修を受ける機会を確保している。	○	キャラバンメイトの研修受講したがまだ実践にいたっていないので、認知症サポーターとしてホーム内でも勉強会を開き外部への勉強会も開催したい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連携会が同業者との交流を図る良いきっかけとなった。グループホームだけではなく、他施設との交流も徐々にできてきた。	○	グループホーム同士の相互訪問は実施できた。これからの課題として、勉強会を相互で実施していきながら職員同士の交流も深め、レベルアップを図りながらサービスの質を向上させていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会や新年会で職員同士が職場以外でゆっくりと話し合える機会を作っている。また、職員個々のストレスを軽減するための対話ができる場面作りに取り組んでいる。	○	職員が過剰なストレスを溜める前に察知できるよう、職員間の意思疎通を大切にしている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々に自己目標管理シートを作成し、目標設定をしてもらっている。三ヶ月ごとに自己評価をする予定である。上長が評価やアドバイスをを行い、各自が向上心を持って働けるように努めている。	○	職員個々の目標設定が適切かどうかをしっかりと見極めながらサポート作りに努めている。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人・ご家族よりそれぞれ収集した情報を参考に、ご本人の現在の状況把握に努めている。入居前デイサービス利用中のご本人と面会し自然と関わられるような機会を設けることで信頼関係を築き上げ、当ホームで安心して生活できるように努めている。	○	ご本人・ご家族だけではなく、入居前に利用しているサービスの担当者等へも情報を提供してもらい、ご本人がなるべく早く環境に馴染んでいくように配慮をしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前よりご家族としっかりと話し合い、意向や要望をよく聴く機会を設けている。サービス開始時には信頼関係が築き上げられているように努めている。	○	入居当初の他利用者の今までの事例等を話す事で自分達だけが悩んでいるのではないと前向きになっていただけるように今後も努めたい。これからも入居前の相談や準備に協力していき、ご家族が入居できて良かったと思えるような支援をしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のそれぞれの必要としている支援を見極めるために、思いやニーズをしっかりと聴き出すように努めている。本当に必要な支援は何かを、ご家族だけではなくケアマネ等にも情報を提供してもらいどのような支援が先決であるかを見極めている。	○	相談を受けた時には、話したことで解決できたと思われるような相談者となっていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面会でご本人と関わる機会作り負担なく入居できる環境作りに努めている。サービス開始前に五泊六日の体験入居を実施している。利用者・家族が安心し、納得していただき同意を得た後に実入居というかたちをとっている。	○	ホームの雰囲気馴染めるように他利用者にも協力を得ているので、今後も利用者とともに支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「新しい家族」の理念に基づき、利用者職員、利用者同士が様々な家事や日常生活を一緒にこなしながら、それぞれの要望・希望や不満といった思いを分かち合い、喜怒哀楽を共にする「もう一つの家」であることを常に念頭に置いている。感謝の気持ちを忘れず、支えあう関係作りを目指している。	○	一緒に過ごす年長者として利用者から学ぶ事や救われる事は多い。尊敬し合う姿勢で支えあいたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	面会時に職員が利用者の生活状況を報告するだけでなく、家族からの意見や要望を聞きながら一緒に利用者を支えていくように取り組んでいる。	○	「屋内の季節感が感じにくくなってきているのでは」という意見をいただく。今後の課題として取り組みたい。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族との良い関係が築いていけるように、職員は家族の面会時等にはたとえ少しの時間でも一緒に同席させていただき、利用者の日々の様子や状況を説明しながら双方の橋渡しができるように支援している。	○	利用者のご家族とがよりよい関係になる支援をしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の学生時代の友人が面会に来られたり、利用者に以前、仲人をしてもらった方が面会に来られている。	○	今までの関係継続に協力していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士も支え合える雰囲気作りをして支援が出来るように心掛けている。	○	利用者同士の良い関係である環境作りに努め、楽しかったと最期は思って頂きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了したすべての利用者や家族とはいかないが、手紙や電話のやりとりをしている。歌を披露しに来てくださる方もおられる。	○	地域住民としても付き合いを継続していきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は、意思疎通の可能な利用者には思いや暮らし方の希望を伺っている。意思疎通の困難な利用者には家族の意向を聞きだし往診主治医・歯科医からの意見も参考に本人の解決すべき課題の優先順位が何か間違わない事に努め検討している。	○	日常生活アセスメント(介護記録)から、課題が何かを見つけ出して本人本位の計画が立てられるように意思の統一に努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に主に家族から生活歴やサービス利用の経過等の情報を伺い、利用者のこれまでの暮らしの把握に努めている。入居後は利用者から話を伺いながら、情報収集に努めている。	○	これまでの生き方を大事にしていけるホームでありたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々のケース記録や日々の申し送りからの情報を共有しながら、把握できるように努めている。	○	日々の記録がアセスメントとなり把握する材料になる事を念頭に置きながら質の良いサービスを実施したい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望を優先に、24時間アセスメントやケアチェック表を作成しながら本人、家族、往診主治医・歯科医、鍼灸師の意見を反映した介護計画を作成している。職員は日々意見交換し提案を出し合い目標を達成できるように努めサービス担当者会議を実施している。	○	日々の記録とケアプランのアセスメントとなるケアチェック表に基づき、利用者の変化に気づき総合的に把握して目標を達成できる生活を提供したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、必要に応じて毎月の会議でも見直しを実施する機会を持っている。入院等で利用者の状態に変化がある場合にはその都度、見直しながら新たな介護計画を作成している。	○	変化に気づき見直すタイミングを見逃さないように努めたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や水分・排泄チェック表を記入し、申し送りしながら情報を共有している。実践や介護計画の見直しにも活かしている。	○	記録もれに気づき職員同士でチェックする事を徹底し習慣を身につけたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に緊急を要することが起きた時や、キーパーソンが遠方に住まれている場合、職員は柔軟に支援する体制をとっている。福祉用具の選択も個別に対応している。	○	柔軟に対応していくことだけでなく、予測できるような緊急対応についてはご家族への理解をもっと深めて生きたい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の家族からの紹介で合唱の披露をして頂いたり往診歯科医の知人にも定期的に浪曲を披露していただいている。毎月、市の介護相談員の訪問を受けたり、年二回の消防訓練を実施している。地域の育児サークル「あじさいの家」とは定期的な訪問で連携が取れている。	○	ホームが取り組んでいる情報の共有を強化したい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まだ十分在宅生活を送れそうな利用者でも利用者と家族の意向でを尊重しながら体験入居を利用して頂き、体験入居中の生活状況をご家族へ説明し他のサービス利用のための支援をした事がある。入居前の利用者の状況をケアマネジャーに相談してより良く暮らし続けてもらえるように努めている。	○	地域包括ケア会議に参加した事もきっかけに今まで以上に地域のケアマネジャーとの連携を深めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターから紹介して頂いた入居希望の見学者の対応をしている。	○	市のグループホーム連携会に参加した事もきっかけに今まで以上に地域包括支援センターと連携していきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族も往診主治医と相談できるように働きかけている。往診主治医からの所見を報告している。医師からの指示や助言・忠告を報告すると同時に介護者からの助言・忠告も含めて報告し、関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援している。	○ 医療・介護を総合して判断できるホームとなり、より良い暮らしをして頂けるように支援したい。また、医療に関する記録を書くときには色を変えて記録し情報共有しやすい工夫をしている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医師と連携しながら、認知症の専門医への受診・必要に応じ通院同行の支援をしている。同時に治療の経過報告を徹底している。	○ 今後も認知症の症状をご家族へ報告していき、適切な治療が受けられるように支援したい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診医師と同行している看護師には気軽に相談できる関係である。	○ 看護職員が非常勤で勤務していた。今後も看護師の確保を検討したい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入退院時には管理者、ユニットリーダー職員が必要に応じて医師所見をご家族と同席して説明を受け情報交換や相談に努めている。早期退院に向けて医師・ご家族と連携している。入院中はご家族・医師・看護師との連携をし退院後より良い生活ができる事を優先して支援している。	○ 退院後、利用者にとってより良い生活が出来る環境を提供したい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居当初に重度化した場合や終末期についてのご家族に意向や心構えについて話をしている。ケアプラン見直しの時にも意向を確認している。	○ 利用者には、意思疎通が可能なときに意向を聞きご家族との意思統一を図れる支援をしたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ることは、重度化しても柔軟に対応できることである。支援する方針の変化にも柔軟に即対応できるように意思統一の強化に努めたい。	○ 終末期に向けて出来ないことが出来る体制にしていけるように検討していきたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に利用者が困らないように情報交換に努めている。	○	ご本人・ご家族だけではなく関わる者の共有に努めたい。
Ⅱ				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者これまでの生活環境を理解し、言葉遣いや立ち振る舞いに気をつけている。羞恥心にも配慮した対応に努めている。	○	利用者は記録に関心がないと思いつまず、配慮したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者からの要望を聞ける環境にする。職員は利用者が自ら発言できるように返答を待つ姿勢で接している。	○	常に聞き上手な支援を心がけたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のみ業務に関わる事は利用者の生活スタイルを優先し工夫している。利用者一人一人がその人らしく暮らせるよう希望にそって支援をしている。	○	利用者を尊重する事と共感しながらコントロールしていく事の区別が出来るようにしたい。適切なサービスを行うことを優先すれば、業務が円滑に出来ると理解していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧品を使っておしゃれを楽しめる支援をしている。理美容は、希望を聞き訪問美容を利用している。	○	衣類については着やすい物を着る事が定着している。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは共同作業している。できる限り利用者と一緒に準備を行っている。米とぎ、盛り付け、食器拭き、もやしのひげとりは習慣となり利用者の日課となっている。味付け・包丁使いも出来る利用者には調理をする環境を提供している。	○	今後も食べる楽しみと、準備をして食べてもらう楽しみ、一緒に作れる楽しみを提供していきたい。
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が好む飲み物や、おやつ、体調に合わせた食べ物や飲み物を提供している。	○	好みを把握して、好みの物を見つけられるようにしたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握している。利用者の羞恥心も配慮し最適な排泄介助の支援をしている。	○	自立で排泄する利用者への把握を強化したい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	楽しんで入浴できるように、拒否がある方の入浴の声かけにはチームケアで声かけの仕方やタイミングに配慮している。	○	それぞれが洗える箇所や支援の仕方の統一を徹底し自立支援を強化したい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なかなか寝付けない利用者は、職員や利用者同士が眠れるまで過ごせるように支援している。昼寝や体調に配慮した休息を促す支援を日常的に行っている。	○	日中の過ごし方を充実させ、夜はぐっすり眠れる支援をしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人が出来る役割や好む役割を把握して張り合いのある暮らしになるよう支援している。調理・掃除・洗濯・塗り絵・歌・等の役割、楽しみ気晴らしができる支援をしている。	○	定着した役割が出来なくなった時の新たな役割、楽しみを素早く見つける支援をしたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お年玉を孫にあげたいと考えている利用者には希望に応じて、ご家族との連携で支援している。	○	利用者がお金を扱う機会には適切な支援が行えるように心がけたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出する事が不足しないように、散歩は日課としている。散歩を好まない利用者には、日光浴を促している。なるべく歩いて行ける事を心がけて距離に配慮している。	○	歩行が不安定となった利用者にも外へ行きたいと思える雰囲気作りをしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居当初より帰宅願望のある利用者、家へ帰るタイミングの支援をした。自宅でご家族と過ごし納得した上で自ら「ホームに帰る」と言って頂ける快適な帰宅が出来た。	○	普段行けない場所への支援の希望をもっと叶えたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居間もない利用者の頻繁な電話の希望には大切な家族役となり電話対応して安心して暮らせる支援をしている。ご家族への配慮を忘れないよう、希望に応じてご家族へ電話をかけられる支援をしている。	○	利用者が手紙を書く楽しみが出来るような支援がしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や、知人、友人、親戚の方が遊びに来られて心地よい面会が出来るように支援している。利用者と一緒に再会の喜びを共感している事が伝わるように心がけている。	○	気持ちよい挨拶が皆ができるように日々心がけたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。抑制になりうるような言葉やケアについては、会議の時に確認して認識できるように取り組んでいる。	○	定期的な勉強会を実施していきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全第一に考え取り組んでいる。各ユニット玄関には利用者が単独外出した事がわかるように不快にならない工夫をしている。	○	出るときには「行ってきます」と声をかけて出る習慣を身に付けていくようにしている。
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が今どこで何をしているか、職員は一人一人の行動を把握できるように努めて安全に配慮している。	○	観察力を養いたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品管理は個々に応じて、安全に過ごせて安心した暮らしが出来るように取り組んでいる。	○	注意の必要な物品がそれぞれ何になるのか区別を的確に判断できるようにしたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットの報告書と同時に今後の対策を職員が全員で考えられるように話し合う場を設けている。また緊急でプランを開始して再発防止に取り組んでいる。	○	対策や改善する為の意思統一の強化を図りたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議や勉強会で確認しあっている。各ユニットリーダー・管理者は指示が的確に行えるように情報を共有している。	○	実際に予測される発作、転倒時の対応の訓練の強化をしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を行っている。避難経路、避難にかかる時間を把握して災害時に備えている。また避難訓練の内容を施設通信に掲載して地域に配布している。	○	地域の協力を得られるように、近隣の方への災害時に関する働きかけを継続していきたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプランの目標を立てる際にケアに伴うリスクも考えるようにしている。	○	今後も、事故が起こる前に予測できる事は早めにご家族へ助言できるようにしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りを確実にこなしている。変化があればその都度記録に残し情報の共有をしている。医師への報告や指示を仰ぐ事も念頭にケアし、ご家族への報告もその都度している。	○	早期発見を常に念頭に置いてケアする事は定着している。
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報はケアプランの基本情報シートに記録している。往診・通院時に追加変更時は情報共有を徹底している。	○	服薬の有無確認が出来るように、誤薬防止のケースを新たに作り誰もが把握できるように徹底している。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に組み入れている	排泄チェック表で確実な排便コントロールが出来るような体制を整えている。	○	食事・入浴等で自然に排便が出来るように工夫している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	往診歯科医・歯科衛生士にも助言頂き、相談もしている。日々の口腔ケアは徹底している。	○	食後の口腔ケアが習慣となっているので自主的に歯磨きをする事が日課となっている利用者もいる。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいる食材業者からシルバーメニューを依頼して、食材を配達してもらい、バランスを考えた食事を提供している。水分チェック表で水分量も一人一人に合わせて提供している。	○	好みの物で、栄養バランスが取れるように配慮している。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	新型インフルエンザの対策を徹底した。今後も体験を基に予防に努めたい。	○	感染症対策の勉強会を定期的に行いたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は常に実施している。食材は買い溜めせず、使う食材を毎日、配達依頼している。	○	プランターで野菜を栽培して、育った野菜を収穫し食べる楽しみを提供できたので、継続したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には自治会の方に飾っていただいている鉢植えの花や利用者と一緒に育てている野菜の苗や花を植えており、誰もが安心して出入りができる工夫をしている。また、インターホン横に掲示板を設置しており、通信紙や利用者の習字や絵を掲示している。	○	玄関の掲示物をさらに工夫したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事時にはBGMを流したり、日差しの強い日などは遮光カーテンを引いたり照明を落としたりしながら利用者に不快感を与えないような配慮を心掛けている。利用者の塗り絵や貼り絵などを壁に飾りつけたり、季節ごとに咲く花や植物を飾ったりしながら利用者にとって居心地よく過ごせるような空間づくりを心掛けている。	○	利用者・ご家族にも意見を聞きながら、季節感を感じられるような共用空間作りをしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの生活状況や行動を考慮した上で、必要に応じて配置換えや模様替えを行いながらストレスを感じず、ゆっくりと和んでいただけるような居場所づくりを心掛けている。	○	共用空間が心地よいものになるよう配慮していきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具やタンス、衣類や小物等を安全面を考慮しながら配置していただき、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	○	居室は個々の好みに配慮している。居心地の良い居室であるように工夫していきたい。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時や換気が必要な時は、必ず窓を開けて換気をしている。リビング、トイレ、浴室、居室には換気扇が付いているので、雨の日なども換気ができるようになっている。エアコンや換気扇を使用しながら、利用者の状況に応じた温度調節をこまめに行っている。	○	換気扇等の清掃を徹底したい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで段差を解消し、要所要所に手すりが設けられており、できる限り安全で自立した生活が送れるような配慮がほどこされている。	○	自立した生活を目指し、安全第一に快適な暮らしを提供したい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の記録やケアプラン、申し送り等で利用者一人ひとりのわかる力を把握しながら混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるような支援をしている。	○	失敗しても気にならない雰囲気作りをしたい。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	定期的に掃除や草抜きをしたり、玄関先に植えている野菜や花、鉢植え、外周りの植木の水やりを毎日利用者と一緒を楽しんでいる。ホームの桜の木の下で花見をしたり天気の良い日は、駐車場で日光浴を楽しんでいただいている。	○	利用者同士が楽しめるような工夫をしたい。

(部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
項	目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

育児サークルの「あじさいの家」に毎週訪問する事が定着しているので、ご入居者もあじさいの家の事を覚えてもらっています。昨年も焼いも大会への誘われ参加したり、訪問時のお茶のお礼にこちら側が座布団を洗うようにしたり、支え合うような関係になってきたように思います。秋にある鋳物師地区の行事の手伝いをしたり、地域清掃へ行ったりしている事がきっかけにご近所の方がご自分の育てた花の披露も兼ねて玄関に植木を持って来てくれるようになりました。去年の11月より毎月違う植木を次々持って来て下さり水遣りの回数等のアドバイスをしてくれます。ちょうど枯れる前くらいには次の花の準備をして持ってきてくれています。隣の方にも余った花を譲って頂きホームの玄関を気にして下さる近所付き合いが出来ました。共同作業している家事の役割については、新しく入居された方も自然と他入居者と一緒にされる環境となっています。伊丹市のグループホームのケアマネ業務の悩み等を話し合う事を目的に地域包括支援センターが集合をかけて下さった連携会への参加しています。他事業所のグループホームのケアプラン作成についても悩んでいる事が理解し合える機会となり勉強になりました。その事がきっかけに近隣の居宅のケアマネが主催する地域包括ケア会議にも参加する事が出来ました。今後も他事業所とも関わりながら、地域と良い関係を築き、サービスの向上に努めたいと思います。